
「EQ」こころの知能指数 (Emotional Intelligence Quotient) という言葉があります。IQ (知能指数) に対抗した名称です。アメリカで研究が始まり、日本でも紹介されました。IQ (知能) が高いのに成果が上げられない人々 (研究者) が存在し、その原因の追求から、社会生活で高い成果をあげるには、知能に加えて こころの使い方の能力も大切であり、そのためEQを上げるトレーニングが必要となったのです。ところで日本は、思いやり、察しの国ですから、あまり必要ないものだと思っていました。近年では「ゆとり教育」の弊害から、全般的な基礎学力 (知識) の低下が言われています。こちら企業活動に多少の影響を及ぼすものと思われます。しかし、これは少し時間をかけてトレーニングすれば問題無いでしょう。私は、むしろEQのレベル低下がより大きな問題だと思ひます。気がつかないうちに、日本人の高かったEQが少しずつ落ちていたのです。ところで、EQには大きく2つの要素があります。

「対自己のEQ」と「対他者のEQ」です。「対自己のEQ」とは、自己の感情に気づき、それをコントロールする能力のことです。「対他者のEQ」とは、他者の感情に気づき、周りとうまくやっていく能力のことです。この2つが高くてはじめて、自分の持つ情報や知識を仕事などに十分生かすことが出来るようになるものです。別にサービス業でなくても製造、管理部門でも必要です。まずは自分のEQをチェックしてください。その後、自社の社員、特に若手の状態を観察し、全体のレベルが上がるようにトレーニングしていきましょう。組織が大きくなるほど、EQのレベル差が成果の差に影響を及ぼすものです。

『京セラフィロソフィー』稲盛和夫著 サンマーク出版 2592 円 (税込) が出版されました。600 ページもあり 京セラ (稲盛和夫氏) の経営哲学の解説書として大変素晴らしいものです。以前は一般向け販売はなく「盛和塾」の事務局に直接申し込みでのみ購入可能でした。今回、何周年かの記念にあたりとかで、興味ある人は誰でも読めるようになりました。もう1冊、京セラ関係の書籍を紹介しておきます。『全員で稼ぐ組織』森田直行著 日経BP社 1728 円 (税込) です。JAL を再生させた「アメーバ経営」の教科書とのサブタイトルが有りますが、著者は京セラ及び京セラ関連のコンサルティング会社の経営に携わった方です。アメーバ経営の具体的な方法については、今まであまり公開が成されていませんでした。ここでは、JAL 再建の例も含め、より踏み込んでアメーバ経営を紹介してあります。アメーバ経営を簡単に言うと、家計簿を付ける感覚で、現場の時間当たりの採算を共有できる、一種の管理会計の手法です。